

平成 23 (2011) 年度 事業報告

(平成 24 年 5 月 24 日理事会議決、平成 24 年 6 月 7 日評議員会承認)

I. 公益財団法人の記録

1. 公益財団法人への移行

平成 23 年 4 月 1 日 公益財団法人への移行登記

2. 役員等の異動

就任 理事 10 名、監事 2 名、評議員 15 名 (平成 23 年 4 月 1 日)

3. 会員数 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会員

() 内は昨年度との差異

個人会員 11,869 人 (−223 人)

ファミリー会員 2,679 人 (−66 人)

ユース会員 43 人 (−13 人)

(2) 団体会員 393 口 / 231 団体 (−42 口 / −22 団体)

(3) 賛助会員 52 口 / 39 法人 (−21 口 / −2 法人)

(4) 寄付サポーター 751 件 (−299 件)

(5) アクションサポーター 21,366 件 (+12,568 件)

合計 37,153 人・口

4. 会議

(1) 理事会

- ・ 5 月 26 日 通常理事会 / (議決) 第 1 号議案 2010(平成 22)年度事業報告・財産目録等の承認
第 2 号議案 評議員会の開催の決定
- ・ 12 月 16 日 理事会書面採決 / (議決) 第 1 号議案 臨時評議員会の開催について
- ・ 2 月 22 日 臨時理事会 / (議決) 第 1 号議案 2011(平成 23)年度補正予算について
第 2 号議案 定款に定める規程類について
第 3 号議案 参与について
- ・ 3 月 22 日 通常理事会 / (議決) 第 1 号議案 2012(平成 24)年度事業計画および収支予算

(2) 評議員会

- ・ 6 月 16 日 定時評議員会 / (議決) 第 1 号議案 2010(平成 22)年度事業報告・決算の承認
- ・ 2 月 3 日 臨時評議員会 / (議決) 第 1 号議案 定款に定める規程類について
第 2 号議案 理事の改選方法について

(3) 委員会等

- ・ 東日本大震災・津波被害地修復のための勉強会 (4/13)
- ・ プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・審査委員会 (5/19、8/9)

- ・教育普及小委員会（6/12、8/22、11/26、1/8）
- ・生物多様性戦略アドバイザー会議（6/27、7/29、10/3、12/6、2/21）
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査 検討委員会（7/28、2/11）
- ・沿岸保全管理検討会（8/1、10/13、11/21、2/21、中海・隠岐視察：9/20～9/23、嘉陽海岸砂浜調査：2/12）
- ・事務局運営ワーキング会議（11/10、12/21）
- ・広報小委員会（12/6）
- ・東日本海岸植物調査委員会（12/27、3/15）
- ・自然観察指導員講習会講師会議（2/5）
- ・日本自然保護協会の方針に係る意見交換会（3/14）

5. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、7 件の意見・提言を提出した。（13 頁・別表 1）

(2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、18 件の声明・パブリックコメント等を提出した。
（13 頁・別表 2）

6. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる 37 件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（14 頁・別表 3）

7. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

- ・第 521 号～第 526 号（年 6 回、奇数月発行、44 頁、各号約 16,000 部）

(2) 報告書・資料集

- ・報告書 No.98 『市民調査全国大会 2010 報告書』（500 部）
- ・資料集 No.49 『ココからはじめる生物多様性地域戦略～市民と育てる、暮らしと自然の未来像～生物多様性地域戦略ガイドブック』（1,500 部）

(3) パンフレット等

- ・寄付リーフレット（2 種類、計 60,000 部）
- ・「地域戦略で生物多様性を守る」（1,500 部）
- ・「自然しらべ 2011 チョウの分布 今・昔」参加マニュアル（60,000 部）
- ・「自然しらべ 2011 チョウの分布 今・昔」結果レポート（19,000 部）

(4) ウェブサイト掲載資料

- ・「泡瀬干潟・海草藻場、サンゴ群集モニタリング調査結果（2004-2011）」全 9 ページ
- ・「2011 年 沖縄・辺野古の海 海草藻場モニタリング調査レポート」全 11 ページ

II. 事業報告書

平成 23 年度として以下の業務を実施した。

1. 重点事業

(1) 生物多様性の道プロジェクト 2011「市民参加の地域戦略づくり」

①国家戦略・地域戦略の課題分析と提言

協会内に、役職員および外部専門家からなるアドバイザー会議を設置した。5 回の会議と 1 回の現地視察を行い、生物多様性を活かした地域づくりに向け、次期生物多様性国家戦略に盛り込むべき事項や生物多様性地域戦略の優良事例・活用方法などを検討した。

②地域戦略づくりセミナー・シンポジウム

各現場の生物多様性を活かした地域づくりを展開するため、生物多様性地域戦略の動向も活かしながら、セミナーや勉強会、ふれあい調査講習会等を開催し、集大成として、2 月 4 日に「シンポジウム・みんなで作る生物多様性地域戦略」を開催し、160 名近い参加を得た。

③「地域戦略づくり市民ガイドブック」と個別地域への働きかけ

生物多様性地域戦略に関する国内外の優良事例を収集・分析しながら、戦略や行動計画策定過程に多くの市民参加を進めるための取組みをまとめた生物多様性地域戦略ガイドブック『ココからはじめる生物多様性地域戦略 ―市民と育てる、暮らしと自然の未来像』を発行した。

④広報

上記活動紹介のためのリーフレットの製作、ウェブ特別サイトの構築などを行うほか、『自然保護』2012 年 1-2 月号の特集を組むなどの普及啓発を行った。また、丸の内さえずり館における展示とセミナーなどを実施した。

2. 保護プロジェクト事業

(1) 海域の保全

①辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動

・普天間飛行場移設事業について

事業者が環境影響評価書類を沖縄県に提出するにあたり、抗議声明を発表した。評価書が公開されるまでの間にも人脈を使い部分的に評価書入手し、対応を検討することができた。専門家を含む「辺野古・大浦湾検討会議」を組織し、評価書への意見書・理由書を作成・沖縄県に提出した。

・沖縄での地域戦略について

名護市にて地域のリーダーを育成するためのふれあい調査を 8 月に実施した。10 月には沖縄県自然保護課や地域 NGO、沖縄大学等の協力を得て、沖縄県の地域戦略策定を意識した「フォーラ

ム 地域を守るコツ！ ～生物多様性地域戦略につながる第一歩」を開催することができた。

・泡瀬干潟について

埋め立て工事再開（10月）前に海草藻場の調査とサンゴ群集の調査を行い、工事再開直前に記者会見を東京で実施し、調査結果や同海域をめぐる問題について広く伝えることができた。サンゴ群集については工事再開後のデータも採り、埋め立て工事による影響を数値で捉えることができた。

②日本の沿岸域の問題提起（Give2Asia 助成事業）

日本の沿岸をとりまく問題に立ち向うため、8月に沿岸保全管理検討会を組織し、検討会4回、現地視察（中海・隠岐、沖縄）を実施した。海洋政策本部が5月に発表した海洋保護区に対する意見書の執筆に着手した（2012年5月公表予定）。

嘉陽海岸砂浜調査・海洋保護区に関するセミナー・自主ルールに関するセミナーを沖縄で実施した。また、沖縄県大浦湾のサンゴ群集を持続可能に利用していくための地域作りの一環としての自主ルール作りの働きかけに着手した。

その取り組みを韓国で行われた IUCN アジア地域自然保護フォーラムや日本サンゴ礁学会大会にて発表した。

(2)各地の自然保護問題の解決

地域 NGO からの要請にもとづく各地の保護問題の情報収集および交渉活動を行った（12～17頁・別表3～4）。問題に応じて、現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力などを行い、保護地域の拡充・自然保護施策の実行を働きかけた。

- ・アセス法改正にともなう基本指針の見直し、環境基本計画の見直しなど、政府・検討の場に提言を行った。
- ・リニア中央新幹線計画のアセス配慮書及び方法書に、南アルプス等山岳地域への影響を指摘し、問題提起した。
- ・国立・国定公園の地熱発電のあり方の検討に対し、影響を指摘し、問題提起した。
- ・環境省・地方事務所の地方行政への権限移譲について、国立公園等の保護地域管理などの点から反対し、政府や議会に働きかけた。

(3) AKAYA プロジェクト ～森林管理の生態系管理モデルの確立～

（三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画推進事業）

（林野庁関東森林管理局委託＋自主）

赤谷プロジェクト8年間の成果と課題を関係者とともにとりまとめ、おおむね10年間のプロジェクトの活動方針をまとめることができた。

①プロジェクト総合事務局業務

- ・意思決定会合「企画運営会議」「調整会議」を運営した。
- ・みなかみ町の視察対応（町長・議員等約20名）、生物多様性地域戦略づくりの協力、学習会での講演などを通じてみなかみ町との関係構築をはかるとともに、企業のCSR活動、取材（JR東日本車内紙『トランヴェール』7月号など）に対応し、広報と支援者開拓を行った。
- ・市民参加型の国有林管理手法の研究として、赤谷プロジェクトサポーター（ボランティア）制度

を運営し、「赤谷の日」を中心に活動したほか、活動拠点「いきもの村」利用ルール、運営方法の改善を続けた。

- ・新設した自然林復元試験地のモニタリングのため、市民参加型モニタリング体制を構築、植生調査講習会を実施した。

②赤谷プロジェクト第1期（2003-10）成果のまとめと発信

- ・第1期8年間のまとめを行い、生物多様性の現状評価に基づいた赤谷の森の望ましい将来像（100年以上）と国有林の地域管理経営計画を市民参加で策定したことが、成果として挙げられた。この成果を波及するため、とりまとめ資料の執筆を関係者ととともに開始した。
- ・今後10年間で実施すべき方向性として、望ましい将来像に至る10～50年後の中長期像の共有と具体的な計画づくりを進めること、順応的管理の体制を構築すること、プロジェクト活動と地域の活動との接点を増やすこと、の3点を関係者とまとめた。
- ・これらの成果を生態学会自由集会で発表し、プロジェクト8年間の成果波及と、国有林における順応的管理のあり方を多くの方々と議論した。

(4)保護地域の問題解決

①小笠原プロジェクト

昨年、一昨年の独自調査で作成したGET区分図をもとに、森林生態系保護地域に関して、再生事業の優先度の設定、場所ごとの対策立案に必要な事業を、環境省・林野庁それぞれに提案した。その結果、2012年度から新規事業が計画されることとなった。

・小笠原南島モニタリング調査（南島植生回復その他調査）

（東京都委託）

南島のモニタリング調査を継続実施し、世界遺産登録前後の利用による自然環境への影響を検証した。研究者等による検討会を開催し、モニタリング調査の今後やクマネズミ排除後の監視・対策の必要性を検討した。

また委託事業とは別に独自に、南島利用のルールについて島内関係者と意見交換の場を設けた。

②尾瀬プロジェクト

脆弱な環境下の登山道のあり方を明らかにするとともに、国立公園の保全管理モデルの構築を目指している。至仏山登山道学術調査の中間報告をもとに、専門家や尾瀬保護財団、関係自治体と、迂回路の候補ルートの調整を行い、1箇所（オヤマザワ田代）については合意を図ることができた。その他2箇所については、迂回先の調整を継続した。

(5)ライブラリー情報整理・活用

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムを整備した。

3. 保全研究事業

(1) 里やま保全研究

① モニタリングサイト 1000 里地調査（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）

（環境省生物多様性センター請負）

全国 193 ヶ所の調査サイトで 1,300 名以上の市民とモニタリング調査を継続し、累計約 67 万件のデータから里やまの生物多様性についての全国的なパターンを把握することができた。また 2 回目となる「サイト交流会」の開催や 2 回のニュースレターの発行、各サイトでの地元調査報告会の支援、調査手法の普及のための概要版調査マニュアルの整備など、各サイトでの調査活動の支援や情報共有に繋げることができた。

② 市民調査の促進

韓国の自然保護 NGO グリーンコリアと両生類の市民モニタリング調査の交流事業を行い、両国の自然保護の現場視察を行うことを通して現場で活動する人たちと課題を共有し、学び合うことができた。また 3 月には日本で日韓両生類市民モニタリングシンポジウムを開催し、両国の市民モニタリングの状況や現場の課題についてより多くの市民団体へ共有する機会をつくることができた。

モニ 1000 里地調査のコアサイトでもある福井県中池見湿地で、モニタリング調査結果をつかって行政が行う湿地内の水路や管理用道路の修復工事を計画変更し、行政・市民団体・地域住民・NGO・工事会社と協力した協議の場をつくることができた。

2010 年に行った市民調査全国大会の成果報告書を発行し、NACS-J の市民調査への取り組みを継続して示す素材を発信することができた。

(2) SISPA（戦略的保全地域情報システム）

① 生きもの情報館

1 年間で 300 名のユーザーと約 5300 件の記録が集まった。2011 年度は自然しらべでの活用ができ、正確な位置情報と種のデータが収集することができ、その有用性が考えられた。また、大分大学の授業では「Web-GIS を活用した環境教育の実践」ということで試験的に授業に利用してもらい、教育の中での有用性についても考えられた。

② ふれあい調査

綾町古屋地区での 3 年間かけたふれあい調査が終了し、調査の結果を、地元の若い世代に伝えるための冊子としてまとめることができた。また、他の地域でもふれあい調査を実施したいという声があがり、調査を今後広げていくことが検討された。

肝付町川上地区でもふれあい調査を開始し、地域住民へのアンケート調査から、地域の重要な自然資源を地域住民自身が気づくことができた。

③ 重要保全地域研究

国際照葉樹林サミットにあわせ、照葉樹林に関する解析や、NACS-J60 年間の活動記録、日本国内すべての風力発電施設をまとめ、WEB サイト上に公開した。また、植物群落 RDB の GIS デー

タが、風力発電施設に係る環境基礎情報の重要な自然地域として採用され、発電施設を建設すべきではないエリアとしてデータの一部に活用された。

(3) 照葉樹林保全研究

① 大隅調査

肝付町の金弦の森において NPO 法人大隅照葉樹原生林の会と協力をして照葉樹林の植生調査を行った。また、GPS を使って希少種の調査をしてもらいデータを SISPA に登録する方法を講習した。金弦の森の近隣の川上地区において人と自然とのふれあい調査を実施した。

② 綾プロジェクト

照葉樹林の価値を再認識し、持続可能な利用を将来にわたって推進するための国際照葉樹林サミット in 綾を開催した。国内外から専門家、市民団体、行政関係者などを呼んで意見交換を行い、国際照葉樹林サミット大会宣言を採択した。間伐前の林床植生の把握を行うために市民参加で調査を実施した。また、5 年前に調査したコドラートの再調査を行い、報告を行った。綾町のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の申請に協力し、9 月に正式に推薦が決定した。

(4) 愛知ターゲット基盤整備

① 国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）事務局運営

IUCN-J 事務局運営を行い、愛知ターゲット達成に向けたキャンペーンであるにじゅうまるプロジェクトの立ち上げに大きく貢献した。また、IUCN 第 5 回アジア地域自然保護フォーラムや、生物多様性条約科学技術助言補助機関会合等に参加し、生物多様性条約第 10 回締約国会議後の愛知ターゲットのフォローアップ状況について情報収集を行うほか、サイドイベントやポスターセッションなどを通じ日本の市民団体の活動紹介を行った。

② 国際情報収集業務

生物多様性に関する国際的な動向を調査し、把握するための情報収集業務を環境省に提案したが、業務発注には至らなかった。

4. 教育普及事業

(1) 自然観察指導員養成

① 講習会

市民団体（自然観察指導員連絡会：4 回、NPO：1 回）、自治体（3 回）、企業（2 回）、大学（1 回）との共催により、全 11 回の講習会を開催し、541 名の指導員を養成した（17 頁・別表 5、初回以降総登録者数 26,031 名）。自然観察会の目的とその手法の理解を図り、指導員としての地域の自然保護活動を促した。また、講師との連絡や会議を通して情報共有し、次年度以降の試行する講習会の短縮プログラム案についての理解を図った。

②研修会

地域の保全行動計画づくりを先導し、地域の保全活動をすすめていくコンサベーションプランナー研修会の企画として、鹿児島県始良市漆地区と福井県敦賀市中池見湿地を対象に、両地域で専門家と近隣の指導員の参加を得て、保全行動計画づくりのワークショップを開催した（2ヶ年、トヨタ助成事業）。

埼玉県在住指導員のスキルアップと埼玉県・彩の国ナチュラリストのフォローアップを目的とし、埼玉県と共催で子どもとの自然観察について学ぶ「こどもと自然観察」研修会（11/5-6実施）を開催した。

③フォローアップ

指導員向けメールマガジン「しどういん徒然草」を月1、2回配信し、指導員の活動に役立つ情報の提供を行った。また指導員連絡組織からの相談や依頼に、各県の指導員情報や協会内にある資料及び情報を提供し、その活動を支援した。

④教育普及小委員会

4回の開催を通じて、指導員養成事業の現状の課題を整理し、講習会の開催形態、プログラム、運営の改良点を検討し、短縮プログラム案をつくり2011年度から試行することになった。また、2011～2015年度の5年間の指導員養成事業に関する目標を立てた。

(2)環境教育一般

①自然しらべ2011

気候変動や地域の自然環境の状態や変化を知る手掛かりとなるチョウをテーマに、市民参加型の環境教育プログラム「自然しらべ2011 チョウの分布 今・昔」を実施した（通算16回目）。共催：読売新聞東京本社、協賛：3社、誌面協賛：8誌、協力（Web広報・参加者プレゼント）：3社、実施期間7/1～9/30、参加者数のべ：10,527名、調査記録4,256件。

多くの人に身の回りの生物多様性に気づく機会となる自然観察会に参加してもらうため、「全国一斉自然かんさつ会」を自然しらべと連動し、全国各地の指導員の協力のもと実施した。観察会開催情報は112件で、ウェブサイトや新聞などの媒体で広報した。

②企業・団体対象

賛助会員や、事業への協賛、寄付企画等を通じてNACS-Jの活動を支援してくださっている、ソニー株式会社、株式会社サニクリーン、共同印刷株式会社、三越伊勢丹グループ労働組合の、社員や社員の親子向けの観察会を行い、社会貢献活動の中での自然観察の重要性を普及した。

③その他（外部対応協力）

- ・一般市民向けのシンポジウムやセミナー、各地区連絡会の総会や勉強会、また行政の人材養成事業などへの講師の依頼、講師紹介の依頼等に積極的に対応し、NACS-Jの進める自然保護活動の普及、各種事業への参加の呼びかけを行った（15頁・別表4）。
- ・総合学習への取り組みの中で行われる、学校からの訪問学習を3件受け入れ、NACS-Jの活動を紹介し、自然保護の重要性を伝えた。

(3)活動・研究支援

・プロ・ナトゥーラ・ファンズ助成（(財)自然保護助成基金との共同事業）

平成 23 年度（第 22 期）助成の募集・審査を行い、21 件の国内外の研究・活動グループおよび個人に計 1,820 万円の資金支援を行った（18 頁・別表 6）。

平成 21 年度（第 20 期）助成の成果報告書を作成し、平成 22 年度（第 21 期）助成の成果報告会を開催（12/10、東京表参道・こどもの城、約 80 名参加）した。

5. 広報・編集事業

(1)広報事業

①広報ブースの出展、講演等での広報

・イベントでのブース出展・展示パネル提供、講演等を通じて、イベントの各関連事業について広報を行った（パタゴニア渋谷店 ボイス・ユアチョイス、モンベルクラブフレンドフェア横浜・大阪・神戸、apbank fes など）。

②パンフレットの作成、配布

・寄付リーフレットを作成し、配布を行った。主催事業のほか、イベント会場や自然観察会などへの配布協力依頼、会員等の協力者に配布を依頼した。自然系施設にはパンフレット常設を依頼（約 650 カ所）。

③その他

- ・寄付窓口のサイト、寄付制度への登録申請を行った。（パタゴニア 1%クラブ）
- ・退会者へ DM を送付し、再入会を呼びかけた。
- ・募金箱の設置協力依頼（23 カ所）。企画型寄付の受け入れ（新規 8 件）。
- ・mixy 年賀状（チャリティ）への協力、外部依頼対応（インターンシップの受け入れ、ほか）

(2)会報『自然保護』の発行

年 6 回（第 521 号～第 526 号）、各約 16,000 部を編集・制作した。震災、原発事故を受け、9・10 月号でエネルギー問題、3・4 月号で震災後の生態系について特集した。9・10 月号のエネルギー問題では、会員のつどい（東京・NACS-J 会議室）を開催した。

[各号特集]・自然を守る人の時間の使い方（第 521 号、2011 年 5・6 月号）

- ・チョウの写真を撮って送ってください！（第 522 号、2011 年 7・8 月号）
- ・自然を壊さずにエネルギーをつくる（第 523 号、2011 年 9・10 月号）
- ・日本人なら知っておきたい森の常識 30（第 524 号、2011 年 11・12 月号）
- ・地域が輝く 生物多様性戦略づくり（第 525 号、2012 年 1・2 月号）
- ・震災後の生態系の変化を追う（第 526 号、2012 年 3・4 月号）

(3) NACS-J ウェブサイトの運営

即応性の高いウェブサイトの運用、更新体制を維持し、震災後の情報加速化に応じた発信、公益法人化にともなう公式情報などの遅滞ない掲載を続けた。入会ボタン（クレジットカード対応）の設置、寄付関連情報の動線改良、法人向けの協力支援方法の提示、支援事例のページ増強を行い、Twitter、Facebook での情報発信を開始した（Twitter 運用ポリシーを作成）。

4月～7月は例年よりもアクセスが減少、後半に多少盛り返したが今年度全体ページへのアクセスは2.9%減少の67万7555PV（1日平均1829PV）（*）。特にアクセスが多かったのは年間を通じての「自然観察指導員」（89,590PV）、夏季の自然しらべ2011（23,432PV）だった。

また生物多様性保全にかかわる情報サイト「BD10.jp——10年で何とかしよう生物多様性」を2011年10月末に開設し、WEBサイトとFacebook, Twitterで運用を開始した。年度末までにWEBサイトに1万5000PVのアクセスがあった。

（*）2010年度までと解析方法を変更。同一指標での比較。

(4) 「伝えよう日本の自然～東北応援シリーズ」（河出書房新社・原画協賛）

自然保護を行動に移し、寄付に誘導する目的で企画。自宅のできる自然保護というコンセプトで、会報に塗り絵ハガキと風景の解説を入れた。会報『自然保護』9・10月号から継続中、震災をふまえてテーマは東北の風景とした。

彩色したハガキを知人に送り、NACS-Jへの支援協力を呼び掛けるための素材として、（株）河出書房新社「大人に塗り絵シリーズ」に原画、塗り方原稿をご提供いただいた。ウェブサイトでも連載し、寄付サイトJustGiving Japanから、NACS-Jへの寄付を誘導した。ハガキ投稿は増加傾向だが、寄付実績には反映していない。

6. 会員管理・サービス事業

(1) 会員管理

- ・会費自動引落の利用促進や登録継続を適宜呼びかけ、会員数維持に努めた。
- ・東日本大震災被災者の内、希望者に対して会費の免除措置を行った。
- ・郵便振替口座について、寄付金の払込手数料免除措置を申請、適用された。
- ・寄付金に関する税額控除の申請を行い、適用された。

(2) 会員サービス

- ・主催催事での直接販売や合資会社 狼森（おいのもり）への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。

7. 顕彰・基盤整備事業

(1) 顕彰（牧田基金事業）

第11回日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、長島の自然を守る会を授賞団体に決定し、授賞式および記念講演会を開催した。（1/22 於：清澄庭園、約70名参加）

(2) 基盤整備

- ・ 公益法人移行に伴い、必要な規程類の整備を行った。
- ・ 過去の報告書・資料集の内、被災地や自然エネルギーに関するものについて PDF 化し、効率的に保存しかつ有効活用できるようにした。

以上

別表1. 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・東北の海辺の保全と泡瀬干潟埋立事業に対する要望 (2011/04/25、内閣総理大臣ほか、WWF ジャパンほか 6 団体共同)
- ・沖縄「嘉陽海岸住民参加型エコ・コースト事業」に対する意見書(2011/06/03、沖縄県知事)
- ・小笠原諸島の世界自然遺産地域の保全と管理への提言 (2011/06/24、環境大臣・林野庁長官・文化庁長官・都知事)
- ・日本における電力エネルギーの展望についての考え (見解) (2011/08/01)
- ・環境省・地方環境事務所の事務・権限の地方行政組織への移譲に反対する意見書 (2011/11/11、環境大臣・民主党)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書」への意見 (意見書・理由書) (2012/02/03、沖縄県知事)

別表2. 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」環境影響評価準備書への意見 (2011/04/07 愛知県)
- ・中央新幹線小委員会答申 (案) に対するパブリックコメント意見 (2011/04/28、国交省)
- ・中城湾港泡瀬地区における「埋立地用途変更・設計概略変更 承認申請書」「埋立区域縮小・埋立地用途変更・計画概要変更・工事竣功期間伸長許可申請書」に対する意見書 (2011/06/03、内閣府沖縄総合事務所・沖縄県)
- ・風力発電施設に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会報告書 (案) に対する意見 (2011/06/09、環境省)
- ・恩名通信所跡地リゾート計画に係る環境影響評価方法書～屋嘉田潟原への自然環境保全上の見地からの意見 (2011/06/29、事業者)
- ・生物多様性保全活動促進法「地域連携保全活動の促進に関する基本方針 (案)」への意見 (2011/07/02、環境省)
- ・リニア中央新幹線計画段階環境配慮書に関する意見 (2011/07/07、JR 東海)
- ・リニア中央新幹線計画段階環境配慮書 (長野県に係る区間) に関する意見 (2011/08/26、JR 東海)
- ・「環境影響評価法施行令の一部を改正する政令案」等に対する意見 (2011/09/07、環境省)
- ・西表石垣国立公園の公園区域及び公園計画の変更への意見 (2011/09/22、環境省)
- ・泡瀬干潟・浅海域埋立事業 環境監視への抗議声明 (2011/09/26)
- ・中城湾港・泡瀬干潟埋立事業 工事再開の抗議声明 (2011/10/14)
- ・共同声明 違法な辺野古アセス評価書、公有水面埋立免許申請の提出に強く反対する (2011/11/17、JUCON・WWF ジャパン等 9 団体共同)
- ・リニア中央新幹線環境影響評価方法書に対する意見 (2011/11/10、JR 東海)
- ・「農林水産省生物多様性戦略の見直し案」についての意見 (2011/11/30、農林水産省)
- ・絶滅のおそれのある野生生物の保全施策に関する意見 (2012/1/4、環境省)
- ・沖縄防衛局による辺野古環境アセス評価書の開示・公開、および知事意見への住民・市民意見反映の実現にむけて (要望書) (2012/01/16、沖縄防衛局・県知事、WWF ジャパン・沖縄生物多様性市民ネットワークの各担当者共同)
- ・環境影響評価法に基づく基本的事項等に関する技術検討委員会報告書 (案) に対する意見 (2012/02/16、環

境省)

- ・環境省の新たな通知「国立・国定公園内における地熱発電の取扱い」は環境行政の後退である（コメント）
(2012/03/21)

別表 3. 委員の派遣（カッコ内は要請主体）

- ・大隅地域照葉樹原生林の会 顧問（大隈地域照葉樹原生林の会）
- ・長野県希少野生動植物保護対策委員会（長野県、継続）
- ・生物多様性長野県戦略策定委員会（長野県、継続）
- ・小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議（関東地方環境事務所、継続）
- ・平成 23 年度野生生物保護対策検討会アカガシラカラスバト保護増殖検討会（環境省関東地方事務所、継続）
- ・平成 23 年度小笠原諸島弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都、自然環境研究センター、継続、今年度終了）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県、継続）
- ・平成 22 年度森林環境保全総合対策事業（生物多様性森林対策事業のうち里山林における国民参加による保全活動等の検討）（林野庁）
- ・生物多様性を考える NGO・NPO、市民の Hyogo 対話企画運営委員会（財団法人ひょうご環境創造協会）
- ・「地球環境パートナーシッププラザ」運営委員会（環境省市民活動推進室）
- ・ちば環境再生推進委員会（財団法人千葉環境財団、継続）
- ・林政審議会委員（林野庁）
- ・林政審議会国有林部会委員（林野庁）
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員（東京都、継続）
- ・生物多様性保全活動の促進に関する検討会（環境省）
- ・狩猟と環境を考える円卓会議（環境省鳥獣保護対策室、大日本猟友会）
- ・特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 理事（トチギ環境未来基地）
- ・尾瀬国立公園シカ対策協議会（環境省関東地方事務所、継続）
- ・尾瀬国立公園協議会（環境省関東地方事務所、継続）
- ・尾瀬適正利用に関わる小委員会（環境省関東地方事務所、継続）
- ・日本 MAB 計画委員会（日本 MAB 計画委員会）
- ・北海道生物多様性検討委員会（北海道森林管理局）
- ・大雪・日高森林生態系保護地域拡充設定委員会（北海道森林管理局）
- ・留萌、ニシンの森自然再生プロジェクト委員会（北海道森林管理局）
- ・保護林総合モニタリング検討委員会（北海道森林管理局）
- ・希少野生生物常設委員会（関東森林管理局）
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域常設保全管理委員会（関東森林管理局、継続）
- ・イヌワシ生態調査法検討委員会（関東森林管理局）
- ・保護林総合モニタリング検討委員会（関東森林管理局）
- ・「富士山・丹沢緑の回廊」モニタリング検討委員会（関東森林管理局）
- ・やんばる森林生態系保護地域設定委員会（九州森林管理局）
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会（九州森林管理局）
- ・西表森林生態系保護地域拡充設定委員会（九州森林管理局）

- ・九州二次林取り扱い検討委員会（九州森林管理局）
- ・エコツーリズム推進法・有識者会議（環境省自然ふれあい推進室）
- ・至仏山保全対策会議（尾瀬保護財団、継続）
- ・至仏調査専門委員会（尾瀬保護財団、継続）
- ・中城湾港泡瀬地区環境監視委員会（沖縄総合事務局・沖縄県）
- ・平成23年度風力発電施設に係る環境基礎情報整備手法検討ワーキンググループ（環境省環境影響評価課）

別表4. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

- ・毎日新聞コラム「生き物カレンダー」執筆（毎日新聞・2011年4月～2012年3月／月1回連載）
- ・国際シンポジウム「カムリウミスズメと上関（瀬戸内海）の生物多様性」（長島の自然を守る会・4/10）
- ・春の湿地保護全国キャンペーン「湿地のグリーンウェイブ2012」（ラムサール・ネットワーク日本・4/14～5/22）
- ・NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク総会 講演（NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク・4/16）
- ・生物多様性保全活動促進法の勉強会（生物多様性チーム江東・4/22）
- ・第85回国展（国画会・4/27～5/9）
- ・ふるさとあいちの自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・4/29、5/29、7/31、8/28）
- ・ふるさと親子自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・5/5）
- ・放送大学 面接授業「生物多様性保全と新しい時代の地域環境管理」（放送大学 群馬学習センター・5/14）
- ・千葉県大草生物モニタリング調査 調査員会合（千葉市環境保全部・5/20）
- ・第3回「山門水源の森」生態系保全シンポジウム（山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会・5/21～22）
- ・シンポジウム「錦海湾の未来を考える。」（瀬戸内市の自然を考える会・5/29）
- ・第28回 自然は友だち わたしの自然観察路コンクール（（財）国立公園協会・6/1～9/21）
- ・2011年度彩の国環境地図作品展（同実行委員会・6/1～3/31）
- ・麻布大学 授業「技術系のキャリア形成」における講師（麻布大学獣医学部・6/6）
- ・2011 三番瀬フィールドミュージアム in 飛ノ台（フィールドミュージアム・三番瀬の会、飛ノ台史跡公園博物館・6/18～24）
- ・市民公開講座「今「いもりの里」が大切な理由（わけ）」（取手市、里山・谷津田保全「いもりの里」協議会・6/19）
- ・まなづる小学校「赤谷ノート」出前授業（㈱ニコン 社会貢献室・6/28）
- ・環境月間・社員向け環境セミナー（㈱ニコン 品質・環境管理部・6/28）
- ・第20回 全国ボランティアフェスティバル TOKYO（（社）東京都社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センター・6/28～11/13）
- ・第28、29回 日本環境会議（日本環境会議 JEC・7/2～3、3/17～18）
- ・第14回 日本水大賞（同大賞委員会・7/7～11/30）
- ・麻布大学 環境政策特別講義「市民発の自然保護」（麻布大学・7/13）
- ・「環境影響評価法に基づく基本的事項等に関する技術検討委員会」ヒアリングスピーカー（環境省環境政策局 環境影響評価課・7/14）
- ・環境 NPO のための政策提言入門セミナー（NPO 法人シーズ 市民活動を支える制度をつくる会・7/23、7/30、9/4、10/15、11/19）
- ・「三浦半島のまん中に自然ふれあいの森をつくろう サマースクール2011」講演（三浦半島自然ふれあい楽校・7/31）

- ・平成 23 年度 夏休み子供自然観察教室 (利根沼田自然を愛する会・7/31)
- ・社会貢献担当者全国会議 (三越伊勢丹グループ労働組合・8/1~8/2)
- ・「第 2 回地熱発電事業に係る自然環境影響評価検討会」ヒアリングスピーカー (環境省国立公園課・8/17)
- ・第 10 回 ヒメボタルサミット in 愛知 (同実行委員会・8/20)
- ・佐渡における外来魚撲滅大作戦 (生物多様性保全ネットワーク新潟・8/27~28、9/10~11)
- ・とくしま県民活動プラザ開設 10 年記念フォーラム 講演 (徳島県 とくしま県民活動プラザ・8/28)
- ・「NPO/NGO 連携で事業継続と更なる発展を思考」セミナーとパネル討論会 (イーラボ東京委員会・8/30)
- ・温泉学会 第 15 回愛知・奥三河大会「地熱発電と温泉」シンポジウムパネリスト (温泉学会・9/10~9/11)
- ・「中央環境審議会総合政策部会」ヒアリングスピーカー (中央環境審議会総合政策部会・9/14)
- ・南日本新聞「東京ファイル」コーナー (南日本新聞社・9/18)
- ・平成 23 年度 JICA 集団研修「生物多様性情報コース」講師 (JICA/国際協力機構・9/28)
- ・社員向け自然観察会 講師 (三越伊勢丹グループ労働組合・10/8)
- ・「にじゅうまるプロジェクトキックオフシンポジウム」共催 (国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)・10/8)
- ・カヤフォーラム 2011 in 岡山 (全国カヤネズミ・ネットワーク・10/10)
- ・会報「じねんじょレターズ」原稿執筆 (NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・10/20)
- ・「市民のための環境公開講座」講演 (損保ジャパン・10/25)
- ・十日町市下条地区 行寺堤の外来魚駆除大作戦 (生物多様性保全ネットワーク新潟・10/29)
- ・雑誌「温泉」特集号 ((社) 日本温泉協会・11 月)
- ・「能登いきものマイスター」養成プログラム 講演 (金沢大学・11/12)
- ・上越地域外来魚問題シンポジウム「希少種の保護と外来生物対策」(生物多様性保全ネットワーク新潟・11/12)
- ・緊急院内記者集会・記者会見「違法な辺野古アセス評価書の提出を許さない！」(JUCON (沖縄のための日米市民ネットワーク)・11/17)
- ・愛知県自然観察指導員連絡協議会創立 30 周年記念事業 講演&原稿執筆 (愛知県自然観察指導員連絡協議会・11/23)
- ・さいたま緑のトラスト運動指導員養成研修 講演 ((財) さいたま緑のトラスト協会・11/26)
- ・宇部自然保護協会 創立 40 周年記念講演会 講演 (宇部自然保護協会・12/3)
- ・緊急シンポジウム「工事を止める！ 沖縄・泡瀬干潟とサンゴの海が消えていく」(ラムサール・ネットワーク日本・12/4)
- ・「2011 九州自然協議会 福岡」講演 (九州自然協議会 2011 大会・12/10)
- ・環境保全戦略講座(持続可能な開発の推進分野) ((独) 環境再生保全機構・12/11)
- ・生物多様性を考える講演会「枚方の里山と生物多様性」(枚方市環境保全部・12/14)
- ・環境省 地方出先機関改革についての意見陳述 (民主党環境部門会議・12/15)
- ・第 3 回人と野生動植物の共生を考えるつどい (登米市市民生活部環境課・12/15)
- ・第二回生物多様性保全活動推進法勉強会 (生物多様性チーム江東実行委員会・12/15)
- ・シンポジウム「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！～長良川河口堰開門と生物多様性～」(同実行委員会・12/19)
- ・第 7 回 日本自然保護会議 (NPO 法人立山自然保護ネットワーク・10/15~16)
- ・「生物多様性保全研修」講師 (林野庁森林技術総合研修所・10/5~10/6)
- ・「第 7 回わくわくアートコンテスト」審査員 (高尾の森わくわくビレッジ・11/13、12/10)
- ・第 8 回 千葉県自然観察指導員フォローアップ研修 (千葉県自然観察指導員協議会・11/26~27)

- ・支部報「高翔（こうしょう）」第57号（（社）自動車技術会 関東支部・1月）
- ・耕作放棄地再生サミット「自給共生社会を目指して」（都市生活者の農力向上委員会・1/24）
- ・緊急院内記者集会・記者会見「沖縄市民訪米団を支援し、違法な辺野古アセス評価書の撤回を求める」（JUCON（沖縄のための日米市民ネットワーク）・1/26）
- ・流山市「生物多様性シンポジウム」講演（流山市環境政策課・2/4）
- ・第11回草津市こども環境会議（草津市・2/4～5）
- ・群馬県野生生物調査・対策報告会（群馬県立自然誌博物館・2/12）
- ・世界湿地の日シンポジウム in 渡良瀬遊水地（ラムサール・ネットワーク日本、渡良瀬遊水地をラムサール条約登録地にする会・2/18）
- ・自然環境シンポジウム「生きものたちのすみかを考える 生息域の現況と破壊」（酒匂川水系の環境を考える会、神奈川県立生命の星・地球博物館・2/19）
- ・第6回「全国チョウ類保全シンポジウム」で自然しらべ2011中間報告（（特非）日本チョウ類保全協会・2/19）
- ・雑誌「Harmony」3月号 原稿執筆（（有）ナインヘッズ（環境省委託事業）・3月）
- ・2012九州環境教育ミーティング in 綾（九州環境教育ミーティング本部事務局・3/3）
- ・東京バードフェスティバル2012（同実行委員会・3/3～4）
- ・シンポジウム「みんなでつくりようネイチャーパーク」講演（生物多様性チーム江東・3/10）
- ・「くらしと生物多様性をつなぐ市民・企業・自治体協働シンポジウム」共催（生物多様性ながの県戦略シンポジウム実行委員会・3/10）
- ・第9回生物多様性シンポジウム「希少生物の保護と移植・放流を考える」（生物多様性保全ネットワーク新潟・3/10～11）
- ・「自然観察指導員三重連絡会 勉強会」講演（自然観察指導員三重連絡会・3/17）
- ・シンポジウム「生物多様性シンクタンクと博物館」（千葉まちづくりサポートセンター・3/18）
- ・「ワースト・アセス・コンテスト 日本最悪の環境アセスは？」呼びかけ人（同実行委員会・3/22）
- ・自然保護セミナー「球磨川の再生を考える」共催（自然観察指導員熊本県連絡会・3/31）

別表5. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
448	5/6-8	島根県	あいらんどパークホテル	島根県・風待ち海道倶楽部・島根県自然観察指導員連絡協議会	43
449	6/17-19	北海道	恵庭市青少年研修センター	北海道自然観察協議会	27
450	6/24-26	東京都	八王子セミナーハウス	五洋建設株式会社・LIXIL 株式会社	60
451	3/9-11	福島県	湯の岳山荘	NPO 法人いわきの森に親しむ会	44
452	7/16-18	神奈川県	富士ゼロックス塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	60
454	9/17-19	愛知県	愛・地球博記念公園	愛知県	59
455	9/23-25	三重県	四日市市少年自然の家	自然観察指導員三重連絡会・三重県環境学習情報センター	48
456	9/30-10/2	大阪府	大阪市立自然史博物館	NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会	50
457	10/14-16	長野県	国立信州高遠青少年自然の家	伊那市	62
458	10/21-23	兵庫県	関西学院千刈キャンプ	関西学院千刈キャンプ	29

459	11/11-13	熊本県	熊本県立天草青年の家	自然観察指導員熊本県連絡会 (自然観察くまもと)	59
-----	----------	-----	------------	-----------------------------	----

別表 6. プロ・ナトゥーラ・ファンド 第 22 期助成先

(万円)

テーマ	国内グループ名 ／海外申請者名	助成額
(1) 国内研究助成		
有明海再生への第一歩 一諫早湾長期開門調査前後の水質・底質・底生動物群集変化の解析	諫早湾保全生態学研究グループ	56
千葉県で新たに発見された絶滅危惧植物スズカケソウ集団の遺伝的多様性解析と保全	市民・県・大学の三者連帯によるスズカケソウ保全チーム	130
大東諸島の固有生物相を支えるダイトウビロウの保護に関する緊急調査	大東諸島生物相研究グループ	100
極東ロシアにおけるシマフクロウ個体群の分布調査と日本産個体群の遺伝的特徴との比較研究 (継続)	北方鳥類多様性研究グループ	107
周伊勢湾地域の里山に生育する湿地性絶滅危惧植物の景観遺伝学的解析	里山湿地研究グループ	130
対馬の山頂部岩角地にのみ分布するツシマノダケ (セリ科) の保全に関する基礎的調査と対馬集団の分類学的固有性の評価	ツシマノダケ研究会	84
主要組織適合複合体(MHC)遺伝子解析による絶滅危惧種イトウの遺伝的構造・多様性の評価及び遺伝的保全指標を含む統合的保全策の提言	イトウ生態保全研究ネットワーク	149
ツシマヤマネコと共生する環境配慮型農業の生息環境保全効果および社会経済的効果に関する研究	佐護ヤマネコ稲作研究会	70
房総半島で生じているアライグマによるニホンイシガメへの被害調査	千葉県の野生生物を考える会	85
伊豆諸島八丈島における外来種ニホントカゲの侵入による在来種オカダトカゲ絶滅リスク評価	島嶼生物学研究会	65
(2) 国内活動助成		
生物多様性のホット・スポット“上関フィールドツアー”	長島の自然を守る会	100
千葉県南部に侵入した特定外来生物ナルトサワギクの海岸侵出防止と駆除	安房生物愛好会 環境部会	101
伊豆諸島新島・式根島・神津島の植生誌編纂 (継続)	伊豆諸島植生研究グループ	51
過去の山岳環境の記録としての写真データベースの作成	日本山岳会自然保護委員会	99
海の博物学者になろう～アマチュア博物学者のためのハンドブック作成～	「海岸へ行こう」実行委員会	66
伊豆半島南東端の浅海魚類相の変移に関する調査報告書の作成	伊豆の魚を考える会	32
鳥の色から生物多様性の価値を提示する一般市民向けシンポの開催	日本鳥学会企画委員会	58
(3) 海外助成		
絶滅危惧種マレーセンザンコウの保全に関する研究	松林 尚志	80
改変・断片化されたサバ州内の森林での霊長類の分布	Henry Bernard	88
ペルーにおけるウミガメ類の危機的な生息域の精査と保護活動	Ximena Velez-Zuazo	80
マレー半島の熱帯山地性雲霧林におけるコケ植物の生育立地選択と空間的分布および多様性	楊 建泰	89
計 21 件		1820